



吹奏楽のポップステージでは欠かせない楽器であるドラムセット。
 その奏法をわかりやすく解説したのが本書「吹奏楽部員のためのドラム教本」です。
 基本ショットから各パーツの使い方と練習方法、そして、セット全体へと順番に進んでいくことで、ドラムセットを習得できるように構成しました。
 吹奏楽で必要とされるドラムパターンやその応用楽譜例も豊富に紹介。
 現場ですぐに役立つ内容がいっぱいです！

NEW
12・20
発売

吹奏楽部員のためのドラム教本

平川象士著

ミュージックエイト発行/価格2,520円(税込)/注文番号TR-002

平川象士 ●Shoji Hirakawa

ドラマー/ YAMAHA Drum, Zildjian Cymbal Endorser
 1971年 愛知県出身。1993年 名古屋芸術大学 音楽学部 弦管打科 打楽器専攻を卒業。
 ヤマハ PMS ドラム講師やアメリカ Musicians Institute P.I.T. 留学を経て 1997年 上京。
 2003~2007年の間、東京ディズニーランド、ディズニーシーの数々のエンターテイメントショーに出演。

平川象士 Group の他、セッションドラマーとして、熱帯 Jazz 楽団、向谷 実とメロディーズ、M8 スーパー吹奏楽団 etc... ジャズからラテン、そして吹奏楽までジャンルにとらわれない活動を展開中。また、パーカッションパフォーマンスチーム「Groove Sonic」で、聴覚と視覚の両方で楽しめるショーも追求している。

URL <http://homepage3.nifty.com/zoosan-zoosan>

日本吹奏楽指導者協会の吹奏楽ゼミナール・カリキュラム「ポップス演奏法」にて指導中の平川氏



各パーツのわかりやすい解説、フィルイン、リズムパターン、ドラムソロ等豊富な譜例……ジャズ、ラテン、ポップスを演奏する際すぐに役立つ事柄が満載です。
 吹奏楽部でパーカッションを担当する部員の実情に即した内容となっています。

吹奏楽部員のためのドラム教本●CONTENTS		
PART1●準備編	PART2●実践編	PART3●応用編
楽器について	リズムパターン	パターン応用編～色彩豊かなドラミング～
基本ストローク	フィルイン	サウンドエフェクト(効果音)
基本パターン	ドラム譜の読み方のコツ	アンサンブルのコツ
各パーツの使い方	もっと上手に演奏するために。	ドラムソロの組み立て方
ドラムセットのチューニング	毎日の基礎トレーニング	※その他役立つコラムも多数!

ドラム技術が未熟でも音楽的に叩く方法

パーカッションはドラムセット以外に練習しなければならないことが山ほどありますが、そのような状況の中、まだ演奏技術が追い付いていないのにドラムセットを担当して演奏しなくてはならないことがあるでしょう。ここでは、そのようなときに使える、「音楽的であるが、簡単な演奏」にアレンジするポイントを紹介します。

●音楽的なアレンジ
 音楽的なドラムアレンジとは、「テンポ、タイミング、ダイナミクス、音色のすべてがコントロールされ、ビートやフレーズが楽々と叩き込める」と言えます。
 シンプルなものにアレンジする場合は、その曲の「最低限ドラムに求められているポイント」を見つけ出し、必要な音だけを取り出すことで、音楽的にも聞きやすいフレーズにすることが可能です。

●ドラムフレーズをアレンジ
 ①バスドラでビートに振りつけているパターンです。ここでドラムに求められているポイントは、3拍のバスドラと2、4拍のシンバルにアレンジできます。

②バスドラで16分音符の振りつけをしたパターンです。このビートはバスドラで16ビートのノリを作り出していますが、シンバル

このアレンジでは、全体のノリが変わってしま

バスドラムの使い方

ロックやポップスのドラミングでは、バスドラムでビートの土台を作り、さまざまな踏み方の中から自分に合う奏法を取り入れ、しっかりとコントロールできるようにしましょう。

●いろいろなペダルの踏み方

押しつけないかでも、バスドラムに押しつける奏法)へ振り出すように踏み込みます。

押しつける奏法)全体で踏み込みます。

ビーターをヘッドに押しつけない、ヘッドから跳ね返すように

バスドラはビートの土台!

●ドラムセットのポジション

吹奏楽でドラムをセットアップするときのポジション例です。
 ①他のパーカッションと比べて、指揮者の正面付近にセット。
 ②バンドの、ほぼセンター付近にセット。
 ③パーカッション隊が下手ポジションのときも、可能な限りバンドの中央に寄せてセット。

オーケストラ、吹奏楽、ロックやポップス、ジャズ、ビッグバンド等には、メンバーの基本ポジションというのがあります。それは、見た目の良さや客席からバランス良く聴こえる配置、そして演奏者が演奏しやすいポジションです。タイムキーパーであるドラムの音にタイムラグ(音の遅れ)を各パートに感じさせないよう、ドラムはあまり端のほうには置かないでください。

ついたら、最終的に、譜面を見ている指揮者やコンサートマスターが見える位置や角度になるように。

●ハイハットオープン

ハイハットも少し開けた状態(ハーフオープン)で叩き、2枚のシンバルをぶつかると、音を伸ばすことができます。先ず両手でコントロールをしましょう。

①ハイハットオープンによる重音を強調したビートになります。

②すべてオープンにすることで、ロックなど強いリズムで使用できます。開け具合を調節して、いろいろなサウンドを作ります。

③中は、ハイハットを開けるタイミングの印として使われます(その場合、右手は即座に閉じていても構いません)。

●アンサンブルでビートを作り出す

16ビートが上手にできないときは8ビートに簡略化し、パーカッションを使い16分音符を揃うことで、16ビートのノリを作り出すことができます。

この16ビートに必要な音は、3拍のバスドラと2、4拍のスネアです。その音をドラマーがしっかり演奏し、パーカッションがシェイカーやタンバリンなどでハイハットの役目を補います。音色や音量がドラムとミックスされるようなパーカッションを選ぶようにしましょう。

ジャズではハイハットを4分音符に簡略化し、タンバリンなどで跳ねたノリを揃うこともできます。

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

このアレンジでは、全体のノリが変わってしま

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

この位置では、指揮者も見えず音も届きません

この位置では、指揮者も見えず音も届きません



〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 3-27-6 TEL.03-3414-0041 FAX.03-3414-1195

www.music8.com